

書くことの領域	平均正答率
〔1〕 語のつづりの問題	57.5%
〔2〕 文の一部を書き表わす問題	62.5%
〔3〕 文を書き表わす問題	63.8%

〔1〕 文中における語のスペリングの問題

- この問題は、「書くことの領域」の中でも特に正答率が低く 57.5% である。生徒にとってスペリングがいかにかむずかしいか、個人個人の努力によってのみ身につくものともいえるが、指導上、特段の配慮が望まれるところである。
- 小問 5 (68.7%) は **each other** の **th** を書く問題で、連語の定着から (*ʌðə r*) と考えれば、音声上からは容易に語をつづることができるために正答率が高いと思われる。
- 小問 6 (36.4%) は **diary** のスペリングで日常生活の中でよく見たり聞いたりする機会の比較的多い「ことば」と思われるが、音から **dairy** や **deary** と誤ってつづる生徒が多い。

このような語は、教室での宿題の指示の場合など、折にふれて指導したい単語の 1 つである。

〔2〕 基本的な語法に従って文の一部を書き表わす問題

- 日本文に合うように英文の一部を並べかえる問題である。小問 9 (88.8%) は、現在完了進行形の文で 3 語を並べかえ **has been working** とする問題であるため非常に正答率が高い。
- 小問 10 (44.0%) は、接続詞 **if** をふくむ文で一番正答率の低いところである。(**it, if, rains**) の語順の問題であるが、誤答傾向としては、**it, if, rains** とする生徒がかなりあるが、**if** の語義・用法の理解が不十分であることに起因している。**if rains it** とする生徒が一番多いが、天候を表わす **it is** ~ の **drill** が多く、**it rains** ~ の **drill** が不十分なのではないかと考えられる。

〔3〕 基本的な語法に従って英文を書き表わす問題

- 日本文に合うように 3 ~ 4 に区切った語句を並べかえる問題である。小問 2 (89.7%) は、**S + V (see) + O + C (原形不定詞)** の文で **I saW** がはじめにあり、「婦人がタクシーにのる」という二つの語群の順序は日本文の語順と似てい

るためか、文型上他の **It ~ to** の構文のような知識がなくても正答が書けることから正答率が高くなったものと思われる。

- 小問 7 (49.3%) は **S + V + O** の文型で、**who** 以下が間接疑問文の場合である。更に **A ~ E** と四つに区切ったことも起因しているが、**Do you know who ~ ?** と考えられない生徒と、間接疑問文 **who he is** の語順の誤りが目立つところである。

領域別に概観すると、1、2 年に比して「読むこと」「書くこと」共にやや正答率が高いことがわかる。

領域	平均正答率
「聞くこと」「話すこと」	61.3%
「読むこと」	70.3%
「書くこと」	61.3%

能力差も大きくなる第 3 学年の英語指導は、週 3 ~ 4 時間という時間の中で、苦勞の多いことと思うが、1 人でも多くの生徒に英語学習への **motivation** をもたせるよう日常の授業に創意工夫されるように願っている次第である。